

テレホン法話

羽島市 第6組 西岸寺 澁谷由美

このところ、毎日ニュースは「モリカケ」と「ニチダイ」です。とどのつまりは、どちらも「言った」「言わない」の発展形です。「言った」「言わない」という些細なことが、愕然とするような展開をみせて驚かされます。一方では、真実を見失い、真実が覆い隠されることに恐ろしさを感じます。

さて、そのようなおり、ラジオから次のような話が流れていました。かいつまんでお話しすると、内容はこのようなことでした。

運動部に、毎日叱ってばかりの指導者がいたのだそうです。言葉でののしり、暴力もふるい、それはそれは恐ろしい指導者でしたが、ある日を境に、全く叱らなくなったのだそうです。全く、です。あまりの豹変ぶりに理由を尋ねてみたところ、彼は言いました。「ある日気づいたのです。選手は私に叱られたことしか覚えていない。私に何を指導されたか一切覚えていない。そのことに気づいたから叱るのはやめました」

この指導者の方は、伝えたいことを、言葉をもって、また、態度でもって指導した。にもかかわらず、受け手の生徒・学生は、叱られたことしか覚えていない。それでは本末転倒である、と気づかれたのです。こうまでも、真逆に指導方法を変えうることができるほどに、指導者の方を突き動かした力は、“これまでの自分の指導”を振り返ったことにあります。

お念仏とは、ほとけさまからの呼びかけ、とお聞きしました。朝夕、お内仏に手を合わせ、それでいいのか、という仏の声をきく。人のことはどうでも良いのです。人の考えは変えることができませんし、正すことなど、もっとできません。ただ一点、お前はどうか、というほとけさまから私への問いかけです。